

平成23年度こうちミュージアムネットワーク総会

日時 平成23年6月8日(水) 13:30～

場所 高知県立美術館 講義室

13:30～

- ・開会あいさつ 高知県文化財団理事長 千葉 健
- ・会場館あいさつ 高知県立美術館長 藤田直義
- ・総会あいさつ こうちミュージアムネットワーク会長 宅間一之

(1) 22年度事業報告及び決算報告

①企画調整部会

- (1) 幹事会 ①6月2日 ②8月17日 ③2月22日
- (2) 総会の開催 → ①4月21日 ②10月26日
- (3) 県立新資料館に関する情報交換会 6月2日
- (4) 通信 第9号 3月発行(編集担当=県立歴史民俗資料館)

②研修企画部会

- (1) 研修会「県立歴史民俗資料館リニューアル概要説明・館内見学」4月21日
- (2) 研修会「土佐山内家宝物資料館リニューアル概要説明」10月26日
- (3) 研修会「写真資料における保存と展示」3月14日(東京都写真美術館 三井圭司氏)

③教育普及部会

- (1) 専門的職員リスト2010作成
- (2) ホームページの更新

④幕末維新の土佐企画実行委員会

- (1) 「志の時代展」ポスター・チラシ
- (2) 幕末ゆめ道場「幕末維新の土佐」(第2弾) 全9回(7月24日～12月11日)
- (3) 「幕末維新の土佐 探訪図会」増刷

⑤「志国高知龍馬ふるさと博対応」

- 5館連携企画「土佐勤王党展」ポスター・チラシ

(2) 平成23年度会長および幹事(案)

	22年度	23年度
会長	宅間一之	宅間一之
幹事会長	市民図書館	市民図書館
企画調整部会	市民図書館・龍馬記念館・横山隆一・民権館・県歴民	市民図書館・龍馬記念館・横山隆一・県歴民
研修企画部会	山内・県文学館・金剛頂寺やなせたかし記念館	山内・県文学館・金剛頂寺やなせたかし記念館
教育普及部会	県図書館・安芸市歴民・春野・県美術館(HP)	県図書館・安芸市歴民・民権館・県美術館(HP)
事務局	文化財団	文化財団

(3) 23年度事業計画および予算報告

1 事業計画

①企画調整部会

- (1) こうちミュージアムネットワーク全体の連絡調整
- (2) 幹事会 ①4月27日 ②日程未定
- (3) 総会 6月8日
- (4) 通信 第10号(編集担当=横山隆一記念まんが館)

②研修企画部会

- (1) 情報交換会 6月8日
- (2) 研修会:検討中
「南海地震で想定される高知県の被害について」
「東日本大震災の被災資料の救出活動について」
「【実習】水損資料の応急処置」
- (3) 見学会

③教育普及部会

- (1) 専門的職員リスト2011作成
- (2) ホームページの充実
- (3) こうちミュージアムネットワーク学芸員連携講座

④志国土佐龍馬ふるさと博対応

- 「土佐勤王党展」ポスター・チラシ配布

⑤県内の資料の保存と継承について
アンケートの実施

(4) 今後のこうちミュージアムネットワークの運営方針について

- ①小規模な資料館や教育委員会などとの連携のあり方
- ②自然史系博物館・動植物園・水族館との連携のあり方
- ③こうちミュージアムネットワーク通信の対象と内容
- ④事務局業務の見直し

(5) その他

- ・来年はこうちミュージアムネットワーク10周年
- ・〈報告〉香南文化財センターの入会申し込み

14:50～ 情報交換会 テーマ《震災とミュージアム》

(1) 高知県立美術館の防災対策見学

(2) 報告「東日本大震災における文化施設・文化財の被災とレスキュー活動について
一報告と問題提起」藤田雅子氏（土佐山内家宝物資料館）

4月22日考古学研究会の緊急フォーラム「東日本大震災に直面して」参加報告

- ・津波被害を受けた場所とそれ以外はかなり違う。津波被害地域は壊滅的。
- ・岩手はリアス式海岸の地形が影響
- ・福島は避難区域に入れず現状が不明
- ・通常の行政組織が全く機能していない（組織そのものが壊滅的）
- ・被災者支援業務が優先されるため、文化財施設に戻れない担当者も多数
- ・水に浸かった資料は腐敗すると二度と修復不可。まずは応急処置が必要
- ・saveMLAK=専門職員によるボランティアwikiサイト

美術館 (M) 図書館 (L) 文書館 (A) 公民館 (K) の被災・救援情報

- ・宮城県資料保存ネットワークの活動…行政の手が回らない部分の作業を担う

今後の課題

- ・復興にあたってのがれき除去で文化財が失われる可能性
- ・建築に伴う発掘調査が通常の3～5倍に激増、知識を持たない人が作業にあたる弊害
- ・仮設住宅の建設制約の問題

- ・博物館などの資料が散逸した場合、目録がないと何があったか把握できない
＝未整理資料の特定は難しい
- ・報告書や図書類も失われている
- ・祭り等の無形文化財の継承
- ・支援を受ける側の力「受援力」を引き出すための、平時からの連携・信頼体制の構築
- ・事業計画の中に歴史資料の保存活動を明記する等、職員が職務として保存活動を行うための根拠が必要
- ・災害前に体制を整えておく
- ・関係者間での信頼関係を築いておく

(3) 意見交換：各館の現状、課題を共有

- ・「災害が起こらなくても救うべき文化財」がある
- ・地域の文化財をどうすべきかの方法を模索するためのアンケート
- ・普段の連携が大事
- ・館蔵収蔵品の目録作りが大事だが、学芸員一人体制ではなかなか進まない
- ・資料目録は、紙管理だったものをデータ化中。どちらもどちらかにしかない情報書き込みがあるため、どちらかでもなくなると痛手
- ・データの管理に完璧な手段はない紙台帳も同じ、火事や水害の危険性。一番安全なのは「分散管理」
- ・現状の把握が必要、今後の研修会でより深めていく

17:00 閉会